

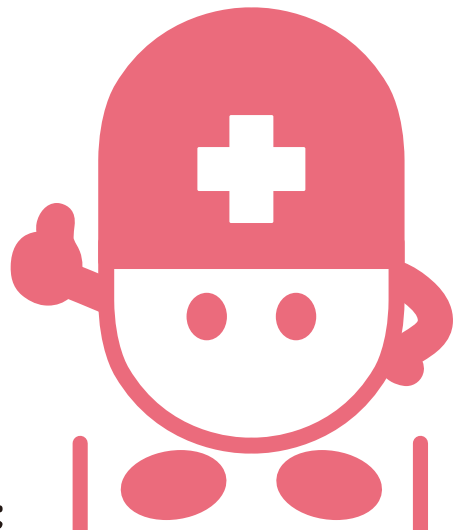
地域の健康 薬局にお任せ

薬剤師は処方箋の薬を出すだけが仕事じゃありません。

あなたのまちの薬局・薬剤師が中心となって、住民の健康をサポートする取り組みを進めています。

目標としているのは、病気やけがで治療中の人だけでなく、家族の介護をしている人や健康な人まで気軽に立ち寄れる薬局。

地域の医療、介護関係者と連携を図り、地域包括ケアシステムの一翼を担う存在を目指しています。



健康かわら版

Vol.3

県内全域でサポート体制づくり

香川県の高齢化率（65歳以上）は2017年で31・1%。全国平均を3・8ポイント上回っています。現状に対応するため、県は医療、介護、生活支援などを一体的に供給できる地域包括ケアシステムの構築を進めています。

一方、厚労省は15年、「患者のための薬局ビジョン」をまとめ、これからの薬局のあり方として「かかりつけ薬局・薬剤師」と「健康サポート薬局」の両機能を強化する方針を打ち出しました。

厚労省のビジョンを推進するため、県は16年度に「健康サポートプラットフォーム構築事業」として地域ごとにモデルづくりを始めました。3年目となる18年度は初めて県内全8地域に取り組みが広がり、各地域の薬剤師会が医療・介護関係者と連携しながら、地域の実情に応じた体制づくりを模索しています。



綾歌郡薬剤師会の事業でお菓子の薬を調剤分包機で小分けする子どもたち

若手薬剤師も積極姿勢

薬剤師のことももっと知ってもらいたい。45歳以下の薬剤師で構成する県薬剤師会青年部も健康サポート体制の構築に、積極的に関わっています。本年度の主な取り組みが医療・介護の関係者を集めた意見交換会。それぞれの職種が抱える課題を出し合い、薬剤師ができることを考えました。

意見交換会は昨年3月から計3回開催。3回目は19年2月に丸亀市内で開か

れ、中讃を中心に薬剤師、看護師、ケアマネジャー、理学療法士ら28人が参加しました。

現場の声が多かったのは高齢者の服薬、残薬問題。あるケアマネジャーは「介護保険の対象にならない軽度の認知症の人が服用できず残薬が大量にある。居宅療養管理指導ができないか、ある看護師は「患者が在宅に移行するとき、内服できるかどうか心配。かかりつけ薬剤師がい



丸亀市内で開かれた意見交換会。グループで話し合った地域の課題を発表する参加者

ば、何ができる？」と質問を投げかけました。同青年部長の小林敬弘さんは「今後も各地域でこのような意見交換会を開き、課題を共有したい。困ったとき、気軽に連絡が取れるような顔の見える関係が築ければ」と地域医療への貢献を掲げています。

健康サポート薬局

気軽に相談受け付け

「健康サポート薬局」は、かかりつけ薬局の機能に加え、専門知識を習得した薬剤師の常駐、プライバシーに配慮した相談窓口の設置、医療機関との連携などの要件を満たした薬局です。

東讃地域で7店舗を展開する松村薬局は18年度だけで健康サポート薬局の要件を5店舗がクリア。2月末現在、県内最多の6店舗で地域の健康を見守っています。原点はひと昔前の「まちの薬局」。1947年の開業当時から、地域の人が病気や健康について気軽に相談できる薬局を実践してきたため、代表の井原祐子さんは「基本的な業務は変わらない」と言います。

残薬問題については数年前にオリジナルの残薬バッグを

顧客に無料提供。飲み残した薬を積極的に持ってきてもらうようにしました。今では残薬量を自己申告する人も多くなっています。



第1回の健康フェアで物忘れチェックを行う来店者

同薬局の薬剤師には「かかりつけ」の要件取得を後押しすると共に、一般薬の知識を深めるように促しています。「世間では処方箋の薬の方が一般薬より効くイメージがありますが、一般薬も『使い方』次第で十分効果があることを知ってほしい」と井原さん。処方箋なく販売できる一般薬の普及に力を入れています。

高齢者の多い地域。各店舗では年3、4回「健康フェア」を開き、骨密度測定などで住民の健康をチェック。薬剤師を派遣する出前講座も行い、薬や健康に関する情報発信に努めています。井原さんは「地域の人が健康に年を取れるお手伝いをしたい。何でも相談を」と呼び掛けています。

かかりつけ薬剤師

薬を一元的に管理

処方された薬を飲み残してしまう人が少なくありません。このような「残薬」は医療費の無駄につながるだけでなく、間違った服用で症状を悪化させる恐れもあります。残薬はどの薬局でも整理してもらえますが、大量に抱えている人などは「かかりつけ薬剤師」を持つことをお勧めします。

かかりつけ薬剤師は、患者に処方される全ての薬だけでなく、市販薬、健康食品、サプリメントまで一元的に相談に応じます。体質や症状に応じて薬の減量や種類変更などを医師に提案します。夜間や休日でも24時間体制で電話相談に応じ、必要に応じて調剤を行うこともあります。介護関連の相談

も受け付け、食事指導なども行います。サポートは、担当のかかりつけ薬剤師を選び、制度を理解して同意すれば始まります。料金は3割負担者の場合で1回70円～100円程度の負担となります。



自宅にある薬を持ってきてもらうため、薬局などが提供している「残薬バッグ」。「節薬（せつやく）バッグ」と名付けているところもある。

お薬手帳

便利な電子版がお勧め

薬と薬、薬と飲み物や食べ物の組み合わせで効果が出たり、副作用が強くなったりすることがあります。これを避けるため、必要なのが、お薬手帳です。しかし、1人で何冊も持っていたり、薬局に持参しなかったりと、適切に使えていない人は少なくありません。

お勧めはスマートフォンでデータを管理できる電子版お薬手帳の併用です。スマホは常に携帯しているアイテム。電子版では、分からない薬の情報をすぐにインターネットで調べられるほか、家族全員のデータが登録できます。不慮の事故や災害に遭った場合は大いに役立ちます。電子版のアプリはたくさ

んあり、無料でダウンロードができます。電子版を含むお薬手帳は料金面でもメリットがあります。サラリーマンら3割負担者は手帳を持って半年以内に同じ薬局を利用すれば、毎回の支払い料金が初回より原則40円（後期高齢者ら1割負担の患者は10円）安くなります。忘れたら安くなりません。

電子版お薬手帳の一例



● 県内の健康サポート薬局

(2019年2月末現在、順不同)

薬局名	住所	電話番号
松村薬局	東かがわ市松原969-13	0879 (23) 1381
松村薬局本店	東かがわ市松原962-1	0879 (24) 0521
松村薬局大内店	東かがわ市川東101	0879 (26) 3211
松村薬局松村調剤薬局	東かがわ市湊1830-1	0879 (25) 5422
松村薬局津田店	さぬき市津田町津田1048-8	0879 (42) 5704
松村薬局しど調剤薬局	さぬき市志度字花池尻2493-2	087 (894) 6171
ひかみ調剤薬局	三木町大字氷上字境淵1232-6	087 (840) 2411
あんず調剤薬局	高松市太田下町1872-5	087 (815) 1606
ファーマシー薬局たかまつ	高松市観光町539-5	087 (832) 7866
栗林公園前薬局	高松市栗林町1丁目6-1	087 (832) 0062
イオン薬局綾川店	綾川町萱原822-1	087 (876) 6224
正木薬局かも店	坂出市加茂町578-5	0877 (48) 1177
サン調剤薬局	丸亀市東城町2丁目14-33	0877 (24) 7135
スター薬局大野原店	観音寺市大野原町大野原4113-1	0875 (23) 6001
そうごう薬局さぬき豊中店	三豊市豊中町下高野1090	0875 (56) 6521

連携を強化、課題探る

地域の薬局や薬剤師を中心に住民の健康をサポートする体制をつくるため、16年度から坂出市薬剤師会を皮切りに、県の「健康サポートプラットフォーム構築事業」がスタート。17年度に高松市、丸亀市、大川（東かがわ・さぬき市）の薬剤師会が続き、18年

度は新たに4地域の薬剤師会でも取り組みが始まりました。事業では関係機関と連携を深めたほか、アンケート調査などで地域の課題を探りました。また、薬局・薬剤師の役割もアピールしました。新たな4地域の取り組みを紹介します。



綾歌郡 薬剤師会

綾歌郡薬剤師会は9月、綾川町の町ふれあい運動公園で町商工会青年部が毎年催している仕事体験イベント「あやがわ発(H parts)子どもまつり」にブースを出展しました。

子どもたちは本物の聴診器を耳に当て母親の心臓音を聴いたり、血圧を測定したり、針の付いていない点滴を親の手に施したりしました。薬局ブースに移動すると、医師の処方箋に従い、ラムネ、粒子コロレート、キャンデーなどを調剤分包機で袋に小分けし、オリジナルの「おいしい薬」が完成。子どもたちは医師と薬剤師の1人2役を体験し、大喜びでした。

地区医師会、町、中讃保健所などで同年1月に設立した綾歌地区生活習慣病対策委員会が事業を企画。特に医師の指導による「お医者さん体験」は他の地域にない特色でした。白衣に身を包んだ

子が医師と薬剤師に



断などについて2人の医師が説明しました。11月には土庄町商業祭に合わせ、町総合会館でお薬相談会を開きました。小豆保健所と連携した事業で、約250人が来場。ロコモ度測定や骨量測定などを行い、薬剤師が生活改善などをアドバイスしました。相談では「薬を飲み残したことを医師には言いにくい」「薬剤師に言えば調整してくれることが多かった」と薬剤師の役割を少し理解してもらえたようです。

事業を通し、車など自力で病院に行くのが難しい高齢者が増えている実態も分かりました。薬をきちんと服用できていない人も多く、同薬剤師会は「お薬相談会」は継続し、薬局・薬剤師ができることをPRしていきます。

小豆郡 薬剤師会

関心高い骨密度測定

善通寺市・仲多度郡薬剤師会は12月、琴平町の町総合センターで開かれた恒例の「チャリティー作品即売展」に合わせ、「ことひら健康の集いWith薬剤師」というイベントを行いました。

周知不足が懸念されましたが、「チャリティー」目当ての地元女性を中心に2日間合わせて約120人が来場。特に骨密度測定の関心が高く、107人が計測しました。一方、ロコモ度測定の認知度は低く、薬剤師が説明をしながら薬や健康相談を行いました。ロコモは認知度の向上と共に、食事やトレーニング指導など、か



善通寺市・ 仲多度郡 薬剤師会

は、残薬のある人が32人いましたが、処方薬を薬局で整理できることを知らない人が過半数の48人。周知不足を感じる結果となりました。今回は同薬剤師会が単独で出展。今後は「医療・介護関係者、医療機器・介護用品・健康食品業者らと連携を図り、健康イベントとして内容を充実させたい」と話しています。

買い物客ら健康調査



観音寺・三豊薬剤師会は10月、三豊市豊中町のゆめタウン三豊で「ふれあい健康秋まつり」を開きました。三豊総合病院薬剤部と連携し、両市や観音寺地域包

括支援センター、西讃保健所などが協力。買い物客ら285人が来場しました。イベントのうち、骨密度、血管年齢、肺年齢などの測定は行列ができるほどの人気。お菓子で薬を作る「子ども薬局」もたくさん

の親子連れが体験しました。また、残薬を薬局に持参してもらうため、オリジナルの「節約薬バック」を作り、参加者全員に配布しました。

観音寺・ 三豊薬剤師会

アンケート(回答135人)では「かかりつけ薬局・薬剤師」の認知度は56%と半数を超えましたが、同薬剤師会は他の項目などから「本質を理解し、活用できていない人は多いのでは」と分析。今後も2カ月に1度の「健康お薬相談会」を継続し、他の医療関係者と連携を図る「ケアカフェ観音寺」も定期開催します。「いろんな取り組みを重ねることで信頼関係を築き、人脈を広げたい」と地域連携の強化を考えています。

2019年3月発行

健康かわら版 vol.3

発行●一般社団法人 香川県薬剤師会
〒760-0006 香川県高松市亀岡町9番20号
TEL.087-831-3093 FAX.087-831-0070

お薬相談
110番

香川県薬剤師会調剤薬局内
TEL.087-811-0205
info@kagayaku.jp